

平成 18 年度修士論文・卒業論文題目一覧

修士論文

- 石川優 越境する二次創作 — 『鋼の錬金術師』のやおい同人誌を中心として—
小川紗依 画家フランシス・ピカビアのダダ期における美術と非美術の融合について
津野熊京子 フィクションと現実の狭間を揺らぐ — トニー・ガトリフの描くロマの世界 —
矢持孝夫 ウィリアム・バロウズの作品受容

卒業論文

- 井上麻弓 パンフレットと旅行体験 — 旅行体験の語りに関する考察 —
上田直人 写真とは何か — 森山大道論 ～『光と影』でつかんだ「写真」～
大本佳奈子 脚本家三谷幸喜のTVドラマにおける独自性について
岡田望見 フジ・ロック・フェスティバル — 現代的祝祭と個人の関係 —
金城未希 『ノルウェイの森』における「身体」と「語り」 — 生き延びるとのこと —
武田真理子 矢沢あい進化 少女マンガ家からエンターテイメント作家へ
辰野照美 ティム・バートンの映画 — ストップモーションアニメの魅力 —
広松みどり 「マンガ家」冬野さほ — 芸術作品におけるコードモ —
森川郁子 60年代ミニ・スカート革命
松本明子 アメリカのコミック市場における VIZ と “Shojo Beat” の役割と影響
八木圭子 ビースティ・ボーイズとニューヨーク

平成 18 年度表現文化学教室活動記録

4月

1日 小田中章浩助教授着任

6日 教室ガイダンス

5月

12日 新入生歓迎会

6月

30日 「劇団 維新派」舞台稽古見学会

7月

14日 卒論・修論予備発表会

9月

26日～28日 インターナショナルスクール（後期博士課程院
生 村上ゆり・清水由紀発表）

11月

17日 卒論・修論中間発表会

1月

19日 3回生卒論予備発表会ならびに新年会

2月

13日 卒論・修論口頭試問ならびに送別会

編集後記

今年度（2006年4月）から表現文化学教室のメンバーに加えていただくことになりました。大阪市立大学の文学部は、以前仏文ならびに表現文化でも教えておられた藤井康生先生に、当時私が考えていた任侠とアウトローに関するささやかな研究会にご参加をお願いし、さらに厚かましくも研究会の会場として仏文の演習室をお借りした時からのご縁です。

しかしまさか自分が大阪市大のお世話になるとは思っていませんでしたので、未だに現実感がありません。今回の『表現文化』第2号にも見られるように、表現文化学は、文学、演劇、映像、写真、マンガなど、文化的な表象に関する分野を網羅的に扱っており、表現文化学教室の先生方は旺盛な知的好奇心を発揮しておられます。藤井先生に至っては、ご専門の十七世紀フランスバロック演劇の他に、歌舞伎、オペラ、映画にも大変な造詣があり、私などは自分の無知に恥じ入るばかりです。ただし、これら先生方の華麗な「芸風」に少しでも近づくためには、まず自らの専門分野の勉強を疎かにしてはならないと言い聞かせています。しばらくは精進の日々が続くことになりそうです。（小田中章浩）

『表現文化』編集方針

- 1 本誌への執筆資格は、原則として、大阪市立大学表現文化学教室所属の教員、大学院生、学生および大学院修了者、学部卒業生とする。ただし、編集委員会が許可した場合、あるいは、特に原稿を依頼する場合はこの限りではない。
- 2 本誌掲載論文は、表現文化学の対象領域を扱うものに限る。
- 3 投稿された論文については査読を行い、編集委員会が採否を決定する。原稿によっては書き直しを要求することがあり、その場合には、編集委員会は再提出された論文をあらためて審査する。
- 4 使用言語は問わないが、母国語以外の言語で執筆された論文の場合には、あらかじめネイティブ・スピーカーのチェックを受けること。
- 5 投稿原稿は原則として、未発表のものでなければならない。ただし、口頭発表のみが先行している場合は、投稿可とする。
- 6 論文の長さは、日本語で原稿用紙 30 枚以上 60 枚以下とする。
- 7 研究報告（研究ノート）は、日本語で原稿用紙 30 枚以上 60 枚以下とする。
- 8 エッセイは、日本語で原稿用紙 15 枚から 30 枚程度とする。
- 9 レビューは、日本語で原稿用紙 5 枚から 15 枚程度とする。
- 10 資料は、日本語で原稿用紙 30 枚以上 60 枚以下とする。
- 11 原稿はパソコンを用いて作成し、入稿は電子データで行うこととする。
- 12 原稿の執筆に際しては、編集委員会で作成した「執筆要領」を参照すること。

執筆者一覽

- 荒木映子 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)
- 野末紀之 (大阪市立大学大学院文学研究科助教授)
- 海老根剛 (大阪市立大学大学院文学研究科講師)
- 清水由起 (大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程)
- 石川優 (大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程
平成 18 年度修了)
- 上田直人 (大阪市立大学文学部平成 18 年度卒業)
- 安部 彩香 (大阪市立大学文学部在学中)
- 望月啓太 (大阪市立大学文学部在学中)